# 中国の飲食店数、10月は747万5000店に減少

中国の飲食業界では客1人当たりの平均支出が2.1%減の32.52元となり、主要分野の大半で逆風が続いている

2026年11月9日（月）



HongcanとHongcan Research Instituteが11月9日（月）に公表した市場データによると、中国の飲食店数は10月に747万5000店となり、前年同月比で3.3%減少した。客1人当たりの平均支出も2.1%減の32.52元だった。店舗数の縮小と消費支出の慎重化が同時に進み、業界は引き続き圧力にさらされている。

報告書によると、市場全体は縮小が続いたものの、その動きは業界のすべての分野で一様ではなかった。Hongcanが追跡する8分野のうち、店舗数が前年を上回ったのは3分野で、5分野は減少した。

増加した分野の中で最も大きく拡大したのは、中国料理のフルサービスレストランだった。Hongcanによると、同分野の店舗数は10月に4.4%増え、138万9000店となった。注文を受けてから作る飲料の分野も3.5%増加し、バーベキュー店は1.5%増えた。

店舗数で最大の分野である軽食・ファストフードは、縮小が続いた。Hongcanによると、同分野の店舗数は10月に333万5000店となり、前年同月比で4.9%減少した。追跡対象の分野のうち、ベーカ

リー・デザート店と西洋料理店は最も大幅に減少した。ベーカリー・デザート店は12.8%減、西洋料理店は12.1%減となり、両分野とも1年間で店舗の10店に1店以上を失った。火鍋店は2.0%減、アジア料理店は0.7%減と小幅に縮小した。

支出データからも、市場の広い範囲で同様の厳しさがうかがえる。Hongcanによると、飲食業界全体の客1人当たりの平均支出は10月に32.52元となり、減少傾向が続いた。追跡対象の8分野のうち6分野で、客1人当たりの平均支出が前年を下回った。

中国料理のフルサービスレストランでは、客1人当たりの平均支出が50.12元となり、2.7%減少した。注文を受けてから作る飲料の分野では2.5%減の17.88元、軽食・ファストフードでは2.4%減の21.95元、ベーカリー・デザート店では2.3%減の33.04元だった。火鍋は1.0%減の57.90元、バーベキューは0.1%減の57.38元となった。

客1人当たりの平均支出が増加したのは2分野だけだった。西洋料理店は4.5%増の82.55元となり、報告書の対象分野で最も高い平均支出を記録した。アジア料理店は1.6%増の76.32元だった。

この2種類のデータを合わせると、中国の飲食市場の圧力が特定の分野に限られないことが分かる。店舗数の減少は供給の縮小を示す一方、客1人当たりの支出減少は、消費者が裁量的な支出に慎重な姿勢を保っていることを示唆する。飲食事業者にとって、この状況では単純な店舗拡大や価格変更だけでコストを吸収することが難しくなりかねない。

報告書は変化の原因を一つに特定していないが、年末に向かう飲食事業者にとって、10月の数字は警鐘となるべきだと指摘した。Hongcanの調査部門は、新規出店や値下げだけに頼っても、縮小市場における経営上の問題は解決しない可能性があると述べた。そのうえで、飲食企業は顧客の維持、再来店の促進、コスト管理、利益率の確保に一段と注力する必要があるとした。

10月の数字は、景気減速の影響が分野によって大きく異なることも示している。中国料理のフルサービス店は出店を続けた一方、客1人当たりの支出は減少しており、店舗数の拡大が需要の弱まりから事業者を守っていないことがうかがえる。大衆市場の中核を担う軽食・ファストフードでは、店舗数と支出の両方が減少した。ベーカリー・デザート店と西洋料理店は店舗数の減少が最も大きかったが、西洋料理店は平均支出を伸ばした。市場では、価格設定力と店舗数の伸びが異なる方向に動いていることを示している。

Hongcanは、10月の飲食業界の動向を幅広く捉えたデータの一部として今回の数値を公表した。データからは、成長がより選別的になった1年を経て、中国の外食市場がなお調整局面にあることがうかがえる。一部の分野では拡大が続く一方、業界の大半は店舗数の減少、客1人当たりの支出低下、またはその両方に直面している。